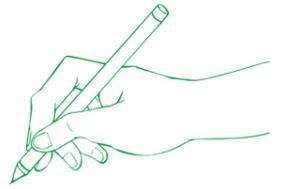


平成24年度採択
文部科学省大学間連携共同教育推進事業



〈考え、表現し、発信する力〉を培う ライティング/キャリア支援



関西大学・津田塾大学
〈考え、表現し、発信する力〉を培うライティング/キャリア支援

■お問い合わせ先

関西大学教育開発支援センター

〒564-8680
大阪府吹田市山手町 3-3-35
TEL : 06-6368-1513 FAX : 06-6368-1514
E-mail : ctlgp02@ml.kandai.jp

津田塾大学 ライティングセンター

〒187-8577
東京都小平市津田町 2-1-1
TEL/FAX : 042-342-5129
E-mail : WritingCenter@tsuda.ac.jp

■取組ホームページ

(関西大学)
<http://www.kansai-u.ac.jp/renkeigp/>

(津田塾大学)
<http://twc.tsuda.ac.jp/renkeigp/>

■関西大学ライティングラボ
<http://www.kansai-u.ac.jp/ctl/lab/>

■津田塾大学ライティングセンター
<http://twc.tsuda.ac.jp/>





ライティングセンターを核にした効果的かつ総合的な ライティング／キャリア支援の構築を通して、 これからの社会に必要な 〈考え、表現し、発信する力〉の育成を実現します。

持続的で活力ある社会を実現することが、わが国の課題です。そのために大学がなすべき使命は、社会において多様なコミュニケーションを形成し、主体的に考え行動できる有為な人材の育成です。

関西大学と津田塾大学は、学生のキャリア形成を視野に入れたライティング支援(ライティング／キャリア支援)に注目し、このような人材の育成に積極的に取り組んできましたが、このたび、より一層充実した支援体制を構築すべく、大規模な連携事業に取り組むことになりました。両大学は、教育理念・規模・地域など多くの点で異なる個性を持っており、両者の個性と強みを融合させることで、高い相乗効果を実現できると考えたからです。

取組にあたっては、両大学で展開するライティングセンターの支援体制整備を中心に、eポートフォリオシステムの開発や客観的評価指標の確立など、あらゆる側面から総合的なライティング／キャリア支援体制の充実を図っていきます。

※文部科学省「大学間連携共同教育推進事業」とは？

大学間連携共同教育推進事業とは、地域や分野に応じて、複数の大学が国公私立の設置形態を超えて相互に連携し、共同教育の推進と質保証システムの確立を目指す取組です。達成目標が明確で高い成果が見込まれる49の取組が選定され、平成24年度より5年間かけて事業が展開されます。



関西大学学長・事業推進代表者 **楠見 晴重**

津田塾大学と本学の連携による本共同教育事業では、総合的なライティング／キャリア教育を通して、学士課程教育の質的転換と有為な人材育成のために欠かせない、〈考え、表現し、発信する力〉の育成を目指しています。採択後、両大学は、密接な連携体制を整え、取組を発展させてまいりました。取組の中心的役割を果たすライティングセンターの支援体制はさらに充実し、利用者も着実に増加しています。さらに、支援を効果的にサポートするeポートフォリオや評価指標などのツールの開発も鋭意進めています。今後も、両大学はステークホルダーと密接に連携しながら、効果的な支援システムを構築し、全国に普及させていくよう努めてまいります。

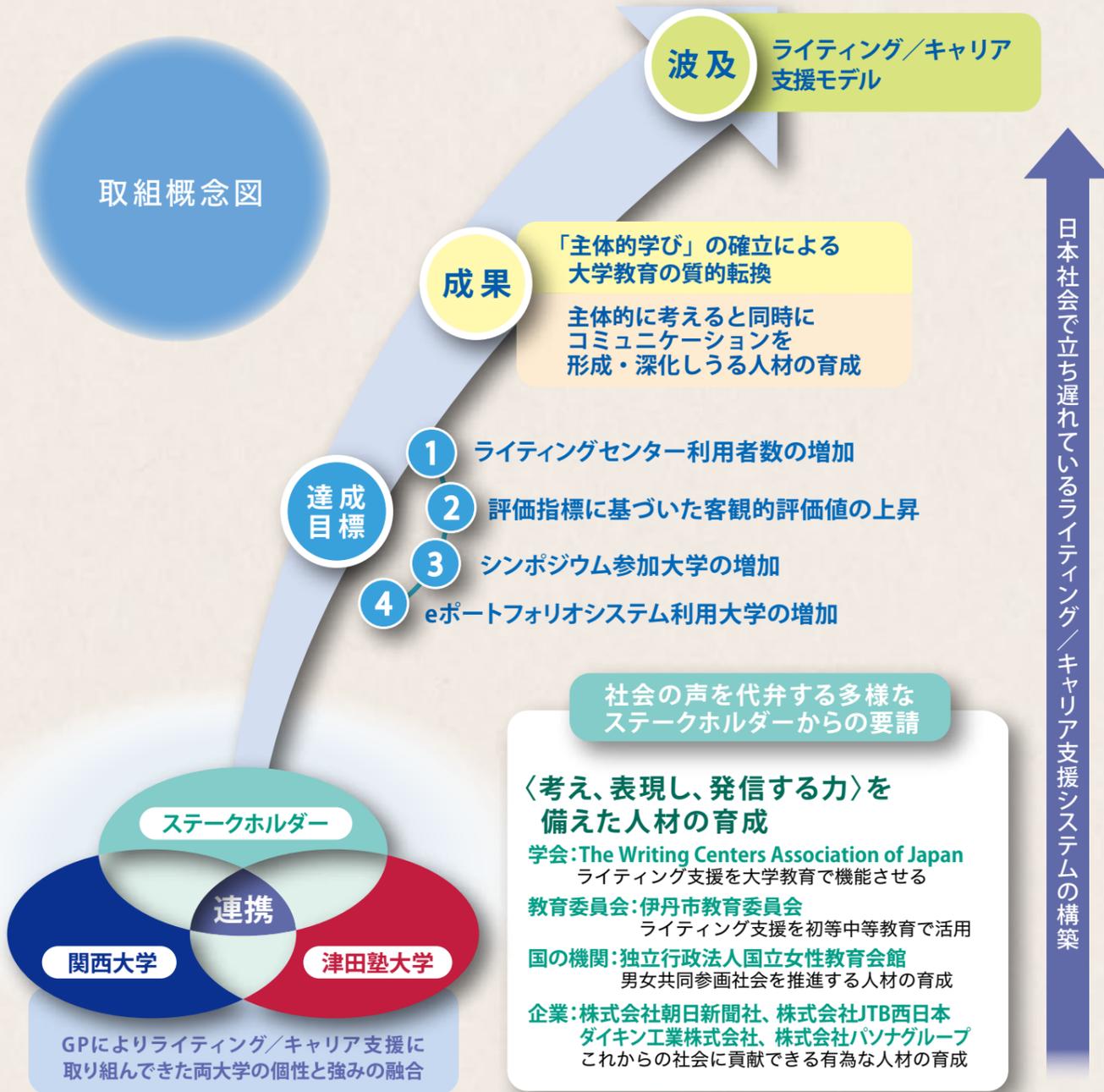
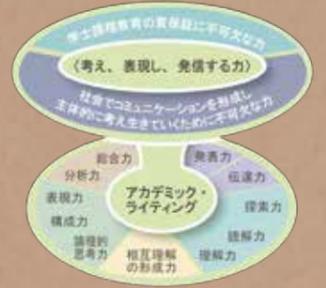


津田塾大学学長 **國枝 マリ**

「書く力」を養う教育を伝統的に重視してきた津田塾大学では、2008年、文部科学省「質の高い大学教育推進プログラム(教育GP)」の採択を得てライティングセンターを設立いたしました。2012年度よりスタートした関西大学との大学間連携共同教育推進事業では、「ライティング支援」と「キャリア支援」を融合し、幅広い発信力の涵養に努めてまいりました。今年度もTV会議システムを利用したシンポジウムの同時中継など、密接な連携のもと、さらなる取組にあっております。今後も両大学が培ってきたリソースを活用した効果的なプログラムを展開することにより、21世紀の男女共同参画社会を推進する人材を育成していきたいと考えています。

〈考え、表現し、発信する力〉とライティング／キャリア支援

大学という学びの場において、これまで蓄積されてきた「書く」ということには、様々な知が集約されています。このような総合的な知的能力が、〈考え、表現し、発信する力〉です。この力は、大学で学んでいくために不可欠な力ですが、それと同時に、社会の中でコミュニケーションを形成し、主体的に考え生きていくために不可欠なものでもあります。それはまさに、学生の人生全体において必要とされるものであり、その育成は、大学におけるキャリア支援の要となります。わたしたちは、このようなキャリア支援と分かちがたく結びついたライティング支援を〈ライティング／キャリア支援〉と呼んでいます。



※ステークホルダーの位置づけ
 今回の連携事業では、社会の声を代弁するステークホルダーとの課題共有と協働が不可欠とされています。本取組では、ライティング／キャリア支援に関わる多様な団体と密接に協力して社会的要請を受け止めるとともに、取組を社会に広げていきます。

関西大学と津田塾大学が、 密接な協力関係のもとに連携し、 〈考え、表現し、発信する力〉の育成のために、 多彩な共同事業を展開しています。



大学間連携共同教育推進事業の目的は、地域や背景の異なる複数の大学が密接に連携して、主体的に考え、社会のさまざまな課題を解決できる多様な人材を育成することにあります。

本事業では、関西大学と津田塾大学が密接な協力体制を整え、学生の〈考え、表現し、発信する力〉の育成のために、多彩な連携事業を展開しています。

本連携事業の5つの柱

本連携事業では、大きく5つの取組内容を設定し、ライティング/キャリア支援の整備を共同で推進しています。

- 1 ライティングセンターを中心とした支援体制の再構築**
本連携事業では、大きく5つの取組内容を設定し、ライティング/キャリア支援の整備を共同で推進しています。
- 2 eポートフォリオシステムの開発**
これまでのeポートフォリオにはない多様な機能を備えた、ライティング/キャリア支援のためのWEB支援システム「TECfolio」を開発しています。
- 3 評価指標の確立**
〈考え、表現し、発信する力〉を総合的に評価するための評価指標（ルーブリック）を開発しています。指標は、ライティング支援や授業での評価や、学生の自己評価のために活用されます。
- 4 カリキュラムとの連携**
大学での授業カリキュラムとライティングセンターの連携を進め、より効果的な教育を実践しています。
- 5 社会との連携**
高大連携、社会連携を積極的に推し進め、ライティング/キャリア支援の取組を、社会に広めています。

具体的な連携取組例

1

海外の先進的な取組から学ぶ

ライティングセンターは、米国の大学で生まれ、発展してきました。現在では、多くの大学にライティングセンターが設置され、学部教育のあらゆる局面において、重要なサポートをおこなっています。本取組では、その豊かな経験を吸収し、日本でのライティング/キャリア支援に活かすために、米国の代表的なライティングセンターを訪問し、共同調査を実施するとともに、シンポジウムの開催などを通して、国内に紹介しています。



米国ライティングセンターのスタッフを講師に招いてのワークショップ(津田塾大学にて共同開催)

2

合同FD/SDを通して支援スキルを向上させる

ライティングセンターの支援は、大学院生のチューター・TAによっておこなわれます。効果的な支援のためには、施設や教材の充実だけでなく、指導者のスキル向上が不可欠です。両大学のライティングセンターでは、定期的な研修を実施し、チューター・TAの指導力向上に努めるとともに、合同FD/SD研修会を開催し、教員・スタッフの支援スキルの向上をはかっています。



教職員合同FD/SD研修会の様子(関西大学にて共同開催)

3

遠隔システムで両大学をつなぐ

東京と大阪という離れた地域にある両大学が密接に連携するために、遠隔コミュニケーションシステムを整備し、活用しています。そのひとつが、両大学を結んだ合同講演会の開催です。これによって、両大学のリソースを有効に共同活用し、ライティング/キャリア支援に役立てています。



津田塾大学での講演会に遠隔システムで参加する関西大学の学生

ライティングセンターの取組報告

関西大学「ライティングラボ」と津田塾大学「ライティングセンター」は、密接な協力関係を維持しながら、それぞれの大学のライティング／キャリア支援の中核として、個性的な支援を実施しています。



関西大学 ライティングラボ

<http://www.kansai-u.ac.jp/ctl/labo/>



マスコットキャラクター ライカン君

関西大学ライティングラボは、2010年に開設されました。2012年からは関西大学教育推進部の施設として、全学の学部生を対象にライティング支援をおこなっています。2013年からは、「コラボレーションコモンズ」内のライティングエリアでも活動を展開しています。今後、さらに支援を拡大していく予定です。



ライティングラボ

関西大学ライティングラボの活動の中心は、大学院生のTAによる、1回40分の個別相談です。

TAが学生と対話をしながら、具体的な問題点を発見・共有し、アドバイスをしていきます。添削をしたり、一方的に答えを与えたりせずに、学生自身が、自分の文章上の問題点とその改善点を考え、書き直せるよう、「気づき」を促していきます。



ライティングラボでの相談風景

このほか、レポートの書き方や文章表現上のテクニックなどを解説する「ワンポイント講座」や「Learning Cafe」を開催しています。

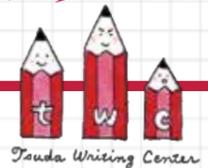
また、高校生向けのライティング講座、ステークホルダーと連携した講演会、高校生と大学生を対象とした作文コンテストなど、ライティングに関わるさまざまな催しを実施しています。



ステークホルダーとの連携による講演会

津田塾大学 ライティングセンター

<http://twc.tsuda.ac.jp/>



Tsuda Writing Center

津田塾大学ライティングセンターは、全学の学部生、大学院生を対象に2008年に開設されました。キャリア教育も視野に入れた、幅広いライティング支援をおこなっています。

活動の中心は、1回45分の個別相談です。専属の教員や大学院後期博士課程在籍のチューターがアドバイスしています。



個別相談風景

アカデミックな文章だけでなく、様々な志望理由書やサークル関係の文書まで、あらゆる文章に対応しています。2013年からはネイティブ教員による、英語の個別相談も始めました。日本語でも、英語でも、「添削しない」方針をとっています。チューターとの対話を通し、考える力を鍛えます。利用者のアンケート回答によると満足度は100%を達成しています。



個別相談風景(英語ライティング)

このほか、講演会「書くということと私」や「女性のリーダーシップから学ぶ」(シリーズ)、「日本語ライティング講座」など、書く力が将来、社会のなかでどう生かせるのか、具体的にイメージできるような企画を実施しています。高校生を対象にしたエッセー・コンテストも主催しています。



「日本語ライティング講座」の1コマ
('自分を広告する'ポスターづくり)